

広島空港アクセスの運行実証実験終了後の方向性について

1 要旨・目的

空港アクセス路線の拡充に向けて、昨年12月から実施している、広島空港アクセス「宮島口空港線」及び「アルパーク・ジアウトレット広島空港線」（以下「2路線」という。）の運行実証実験終了後の方向性を報告する。

2 現状・背景

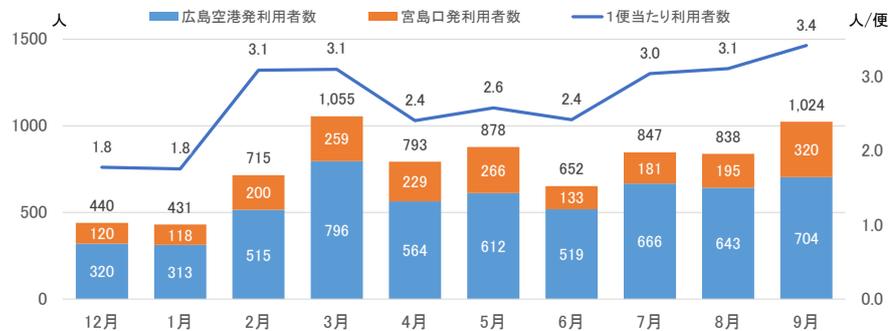
2路線の運行実証実験が今年11月に終了することから、9月までの利用状況等を踏まえ、12月以降の2路線の運行継続の可否について、運行事業者から報告があった。

3 概要

(1) 運行実証実験の結果

ア 宮島口空港線

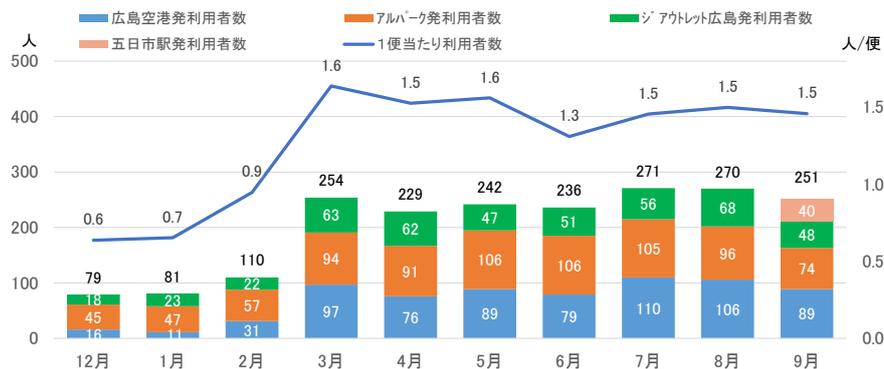
○利用者数については季節変動があるものの順調に推移しており、9月末までの累計で7,673人と目標利用者数（10,000人/年）の達成は可能な状況。



イ アルパーク・ジアウトレット広島空港線

○利用者数については3月以降安定的に推移しているものの、9月末までの累計で1,983人と目標利用者数（6,000人/年）の達成は困難な状況。

○利用者意向調査では、交通結節点への乗降場所設置を求める声が多かったことから、9月より、アルパーク・ジアウトレット広島発便の3便のうち1便を五日市駅発に変更し、五日市駅発便での実証運行も開始。



(2) 運行実証実験後の方向性

ア 宮島口空港線

利用者数は順調に推移しており、現在の運行方法を基本に、自主運行により運行継続する予定。

イ アルパーク・ジアウトレット広島空港線

アルパーク及びジアウトレット広島での利用者数が低調に推移する一方で、五日市駅発便の1便当たりの利用者数が比較的好調なことから、広島空港と五日市駅を結ぶ「五日市駅空港線」に改編した上で、自主運行により運行継続する予定。

※具体的な運行方法については、今後、運行事業者において、より利用が見込まれる便や乗降場所にダイヤを集約するなど、利便性と採算性を考慮した適切なダイヤ等が編成される予定。